

どすこいかわら版

発行 墨田区 編集 NPO法人て一ねん・どすこい倶楽部

墨田区に寄席ができました！「向じま・墨亭」を取材

令和元年5月1日に、墨田区東向島に寄席ができたことをご存知ですか？



水戸街道から鳩の街商店街に入り、一番奥まで進んだ右側角地の古民家2階が寄席と

なりました。席亭は瀧口雅仁さんで、大学講師の他、演芸評論家として伝統芸能に関する多くの書籍を執筆しています。早速、瀧口さんにお聞きしました。

Q1 生い立ちについて教えてください。

私は両国で生まれ、祖父は尺八、祖母は日本舞踊を嗜み遊び好きな両親は、私が9歳の頃から一緒に、寄席に連れていってくれました。大学では国文学を専攻しました。当

時、学内には、落語研究会がありました。落語研究会がため私は加わりませんでした。卒業後、出版社に就職し、雑誌の編集に携わっていました。2005年に退職し、演芸評論家として独立しました。特に印象に残っているのは、初代三平師匠の落語や、春日三球・照代の「地下鉄はどこから入れたんでしょうねえ？それを考えると一晩中眠れなくなるの」という「地下鉄漫才」が面白かったですね。

Q2 寄席を作るきっかけは何ですか？

長年、芸能関係の執筆やプロデュースをしてこられたのは、多くの先輩さんのお陰で、何らかの恩返しをしたいと考えていたところ、3年前に隣の家が空き家となったので、購入して寄席を作ろうと決心しました。

Q3 寄席を作ることで一番苦労したことはなんですか？

興行場として許可を受けるために、耐震、防火、空調、

照明等の建物の改修工事が大変でした。

Q4 お客様の最大収容数は20名ですが、運営費用等の問題はないですか？

赤字覚悟でこの寄席を作りました。落語家さんの多くが私の熱意に賛同してくださり、有名な落語家さんにも、出演していただいています。

Q5 向島は江戸落語の発祥の地と聞いたことがあります、本当ですか？

この地域は昔から料亭が多く、多くの趣味人が集まり、落語会を開いていました。それが発祥の地と云われる所以です。

Q6 「オフィスぼんが」の代表を務めています、主な活動について教えてください。

落語会の企画や運営、開催、各種演芸関係のイベントのプロデュース等を行っています。今後、落語の公演の他、若手の勉強会の場所として、各種伝統芸能の素晴らしといったものを地域の方々にも学んでいただける場所として提供したいと考えています。

記者として、今後、向じま・墨亭が江戸落語発祥の地にできた寄席として、益々地域の方々に愛される場所になることを願っております。

写真は、高座に座っている瀧口さんです。



会場：向じま・墨亭（墨田区東向島1-10-20）
問合せ・予約：オフィスぼんが
電話：080-1327-5615
メール：ticketbon@yahoo.co.jp



お母さんはケーキ屋「願わくば・・・」 その6 山谷 いく

私たち4人家族は、6畳2間に台所と風呂付の狭いアパートに住んでいた。1人で営むケーキ屋はアパートとは道を隔てた真向かいにある。元々は、母と私が住んでいた小さな1軒家を喫茶店に改築したことで、母は喫茶店の2階で暮らさなければならなかった。

その喫茶店を今度はケーキ屋に商売替えをした。娘が35歳にもなつて結婚し、ましてやう人の孫まで授かったことが、辛い母の生涯を明るく空色にでも塗り替えたかのようである。信用金庫に勤めていたにもかかわらず、風呂掃除や食事の後片付けを買って出る。孫たちと一緒にいられる喜びがそうさせたのかもしれない。

午前6時からケーキ作りを始める。午前11時までに100個のケーキをショーケースに並べなければならぬ。昼食は時間がもったいないので食べない。すぐに翌日の仕込みをしなれば間に合わない。午後5時には保育園のお迎えがあるため仕込みをしながら作る手を休めてケーキの販売となる。

ケーキ作りはタイミングを間違えると失敗する。手を放せない時はお客様に「ちよつと、待ってください」と声をかけるとお客様は快く待ってくれた。失敗すると材料と時間の損失で時間は取り戻せない。子供が寝てから仕込みのやり直しとなる。10時間以上もの立ちっぱなしできつい

労働となった。夕食の準備や食事、お風呂を済ませると午後10時には子供より先に眠くなってしまふ。長女の宿題や明日の持ち物などの相手をする時間は作れなかった。
小学1年生になったばかりの長女が泣きながら店に駆け込んできた。店の前を通りがかる男の子2、3人のことを「あのお兄ちゃんたちバカだよ、お母さん」と同意を求めた。

訳を尋ねると、「すぐつぶれるよ、こんな店どうせまずいケーキだよ」と言われてしまったためであった。
「そうなの、〇〇ちゃんはどう思う。お母さんの作ったケーキまずいと思う?」と聞くと、うつむき黙ったまま大きく首を振った。
「ああよかった。〇〇ちゃんが美味しいと思うのなら、お母さんだつて絶対に美味しいケーキ作るからね」
開店して半年間、一番辛い時期だった。売れ残ったケーキをゴミと一緒に捨てる辛さよりも娘の悔し涙の方が辛かった。「この子のためにおい

しいケーキを作ろう」親ならではの感情を抱いた。
わら半紙をケーキの材料を計った鉄板に敷くためだけでなく、娘とのコミュニケーションを使用するために沢山買った。「34、57」と、仕事をしながら出す私のいいかげんな問題を娘は楽しそうに計算する。それも、30分程度である。
娘が料理上手でシャイ、いざとなれば勇ましい人に巡り合うことを願っている。

手軽にクッキング 107

<9月のお惣菜>

「ブロッコリーのチーズマヨ風味」

<材料> 2人分 (1人分145kcal)

ブロッコリー 1/2株
マヨネーズ 大さじ2
とろけるチーズ 2枚
(ピザ用チーズでも良い)
白いりごま 少々



<作り方>

1. 鍋に湯を沸かす
2. ブロッコリーは、小房にわける
3. ブロッコリーの軸は皮をむき、乱切りにする
4. 2と3を2～3分ゆで、水気をしっかり切る
5. 4のブロッコリーを皿に並べる
6. 5のブロッコリーに、マヨネーズを適宜かける
7. 6のマヨネーズの上に手でちぎったチーズをのせる
8. 白いりごまをパラリとかける
9. 電子レンジで20秒ほど加熱する
(チーズの溶け具合をみて、加熱時間を変える)

◆耐熱皿にのせ、オーブントースターで5分焼いてもおいしいです。

(協力：食育支援部)

「私の古い記憶」

吉田 修

毎年、今の時期になると、思い出すことがある。

私は昭和17年、港区芝で生まれた。

最も古い記憶は、3歳前後のことである。炬燵の中で仰向けになっていると、天井から下がった裸電球の傘の周りの黒い布を、上の兄2人が、触りながら、「これを取ると憲兵に、怒られるよ」と話をしている情景である。

2番目に古い記憶は、薄暗い所を母に手を引かれ、地面に掘った穴の扉を上げて入ろうとすると、ロウソクの明かりに照らされ、たくさんの方がいて、こちらを見ている。

次に古い記憶は、夜空が真っ赤に染まり燃えている家々の傍を母の背中に掴まり、逃げているところである。上からは火の粉が降り注ぎ、周りには沢山の人影が見える情景である。この3つ以外は何も覚えていない。恐らく幼児には限界を超えたできごとで、心が閉じてしまったためと思う。

私は5男2女の最後に生まれた。

長男は戦死、次男は病死したが、両親も家族も、何も語ってくれなかったため、写真でしか知らない。

戦後、覚えている最も古い記憶は、明るい日差しの下で、傾いた小屋のドアが開いているので入ってみると、おひつにご飯が広げられ湯気を出している情景である。

右手を伸ばしてご飯を一掴みしようとする、突然、後ろから父親の手が伸びてきて止められてしまった。無言であったが、まだ食べてはいけないことが分かった。

戦後、覚えている2番目に古い記憶は、広々としたトウモロコシ畑で穂が風になびいている情景である。その後の記憶は、普通の家での生活場面で沢山のことを覚えている。鶏を10羽位、飼っており毎朝、卵を取りに行くのは私の仕事であった。親鳥につつかれないよう、卵を取ってきたことを覚えている。

この時期、何故か私は夕方になると、いつも泣いていた。親にとっでは見苦しかったようで、泣き止むまで押入れに閉じ込められた。その押入れには窓があり、月が良

く見え、毛布に包まりながら眺めていると心が落ち着いて寝入ってしまった。

しかし、近所の子供たちと遊んだことは何でも思い出せる。缶蹴りや鬼ごっこ、メンコ遊びやビー玉遊び、ベーゴマや羽根つきをした。また女の子とブランコに乗って遊んだ。近所のお兄さん、お姉さんとは公園で、ザリガニや魚、トンボやセミを取り遊んだ。夜は、* 幻灯機や映写機で漫画映画を見る機会もあった。街中では、木炭自動車走っているところや、近所のおじさんがポンポンせんべいを焼いているところが、面白くて見とれていたことが思い出せる。

小学校の入学式は母に連れられて行った。先生が来るまで、黒板の右端からチョークで電車を書き、線路を左に伸ばしていくと、もう一人、左端から線路を書いてきた男の子がいた。真ん中でかち合って取っ組み合いの喧嘩になってしまい、お互いの母親に止められた。しかし後に大の仲良しになった。

現在77歳になるまでのことは、何でも思い出せるが、普段は今の時を楽しむことが私の最優先事項になっている。今までの悲しみ、喜び、大変だったこと等、



全ての記憶は浄化され、どこかへ消えていくものと感じている。

* 幻灯機↓ガラスに描かれた幕に投影するスライド式映写機の原型

「シニア人材バンク

登録者募集中」

ボランティア活動をしたい方の登録と依頼に応じた派遣を行っています。

パソコン、麻雀、将棋、子育て支援、日本語支援、家事援助、生活支援、健康教室のお手伝い、各種講座、講演会の企画から会場の準備作業など、どなたでも気軽に参加できる、さまざまな活動をしています。

皆様の知識、経験、特技、趣味等を地域で活かしてみませんか?

令和元年度 第3回 生きがい講座

認知症を予防する“脳によく効く”食事の話！
アンチエイジングの専門家による「認知症と腸内環境」

【日時】令和元年 10 月 30 日（水）午後 1：30～午後 3：30

【会場】 曳舟文化センター：レクリエーションホール B

(墨田区京島 1-38-11)

【費用】 無料 【定員】 50 名

【対象】 おおむね 55 歳以上の方

【滝田 実千代：講師プロフィール】

- 日本デトックス株式会社 代表取締役
- 日本アンチエイジングフード協会リーダーマイスター
- 日本抗加齢医学会 正会員
- 臨床分子栄養医学研究会 会員
- アンチエイジングの視点から、食と医療と農業をコラボして、健康で美しく年を重ね人生を豊かにする様々な事業を展開。



*** 健康で長生き！**

食事と腸内環境からみた「認知症の予防に効果的な食材や食事の話」

■ 申込み・問合せ：NPO 法人てねん・どすこい倶楽部

〒131-0032 墨田区東向島 1-17-8-2F

電話：03-5631-2577 / Fax:03-5631-2578

(受付時間：平日午前 10 時～午後 4 時)

■企画・運営：NP0 法人てねん・どすこい倶楽部

■主 催：墨田区

つながる
墨田区

発行 墨田区福祉保健部高齢者福祉課
〒130-8640 東京都墨田区吾妻橋1-23-20
電話 03-5608-6168

編集 NP0法人てーねん・どすこい倶楽部
〒131-0032 東京都墨田区東向島1-17-8
電話 03-5631-2577 FAX 03-5631-2578
(受付時間：平日午前10時～午後4時)
メール tehnendosukoiclub@jcom.home.ne.jp
ホームページ <http://tehnendosukoiclub.jpn.org/>

今年の夏は、各地で異常な高温が記録されました。いよ
いよ来年は、東京2020オリ
リンピック・パラリンピック
競技大会が開催されるため、
マラソンのように、長時間屋
外で競うスポーツ選手にとつ
ては、負担が大きくなりそう
です。また、アスファルト舗
装した道路は焼けつくような
温度になります。打ち水をす
る等、なにかできることはな
いかと考えるております。

編集後記